

自分の考えをもちながら読もう

－第4学年 場面を比べて「一つの花」－

羽 場 邦 子

1 はじめに

中学年では、「自分なりの疑問や気づきを大切に、課題解決的な学習に向かう」ことをめざす。子供たちは、自分で考えたい、自分たちでやってみたいという思いを強くもっている。この意欲を大切にして、2年間学習を進めてきた。「課題を作る－解決の方法を考える－課題を解決する－まとめる、ふりかえる」という学習過程の中で、3年では書き込み用プリントによる、4年ではノートに考えをまとめるといった一人学習を重視した。また、作品を大きくとらえて読む力をつけるために、4年ではいくつかの作品を少ない時間数で読む学習も行った。

本実践では、一人学習での考えを相互交流で広げたり深めたりする場を中心に述べていきたい。

2 実践事例－場面を比べて「一つの花」－

(1) 単元について

この作品は、戦争中と戦後の場面の対比によって、ゆみ子という女の子と家族の姿が描かれている。戦争の状況変化に応じて、幼いゆみ子を見守る両親の深い愛情を読み取ることができる。戦後は、母といっしょに明るく生活するゆみ子の姿をコスモスの花とともにとらえることができる。子供たちは自分とゆみ子を重ね合わせながら読み進めるであろう。この作品を通して、平和のすばらしさ、そして、人間にとって一番大切なものは何かについて考えさせたい。

本単元を学習する前に戦争や平和に関わる本をどれくらい読んでいるかアンケートをとった。少ない子供でも5冊、多い子供は10冊以上読んでいた。「一つの花」をすでに数名が読んでおり、「これは戦争のお話だね」と発言する者もいた。一次感想では、幼いゆみ子がわがままで書いた子供もいたが、戦後、母と生きるゆみ子の姿を喜ぶ感想も多かった。両親については、父親の優しさを記述した者が多かった。

本単元全体を大きく3場面に分け、それぞれの場面毎に課題を作り、一人学習の仕方を話し合った。さらに、一人学習での考えを相互交流の場で広げたり深めたりしながら読み深め、自分なりの感想をまとめることができるようにした。

(2) 指導目標

- ① ゆみ子や両親の気持ちを読みとり、自分なりの感想をまとめることができるようにする。
- ② 自分の考えと友達の考えを比べ、話したり書いたりして読み深めることができるようにする。

(3) 指導内容と計画（全8時間）

第一次	全文を読み、課題解決の見通しをもつ。……………	2時間
第二次	場面毎にゆみ子や両親の気持ちを読み取り、感想をまとめる。……………	4時間
第三次	学習のまとめをする。……………	2時間

(4) 学習の概要

出会う

全文を読み聞かせた後の一次感想より（心にのこったことは）

《1場面》

○幼いゆみ子（一つだけちょうだいがかわいそう，わがままかな） 11名

《2場面》

○父がゆみ子に一輪のコスモスをあげた（やさしい，心配している） 17名

○母がおにぎりをゆみ子に全部あげた（やさしい，悲しい） 3名

《3場面》

○大きくなったゆみ子（母といっしょに，コスモスいっぱい） 10名

《全体を通して》

○戦争について 3名

・ 何で戦争があるのか。

・ 今はたくさんもらえる。戦争の時は全然もらえないのが分かった。

・ 戦争はあまり好きでない。でも，これは戦争という字は出てくるけれどいいお話だ。

見通す

《学習課題を作る》

一次感想を場面毎に取り上げながら，子供たち全員で学習課題を考え合った。1場面と3場面はすぐに決まったが，2場面は，分量も多いため，さまざまな意見が出された。話し合いの結果，3つの課題をひとまとめにした。1・2場面は，お父さんに視点から，3場面は，ゆみ子の視点からの課題を作った。子供たちの話し合いを聞いていると，「～だから，自分はどう考える」という発言が多く見られた。これまでの学習での成果であると感じた。学習課題は次のように決まった。

《1場面》○どうしておとうさんは，めちゃくちゃに高い高いしたのでしょ。

《2場面》○戦争に行くお父さんの気持ちを考えましょう。

（・お父さんにコスモスをもらったゆみ子の気持ちとあげたお父さんの気持ちを考えよう。

・どんな気持ちで汽車に乗ったのか。なぜ，ゆみ子のにぎっているコスモスの花を見つめながら汽車に乗ったのか。

・軍歌に合わせて，小さくばんざいをしていたり歌を歌ったりしているお父さんの気持ちを考えよう。）

《3場面》○小さいころのゆみ子と今のゆみ子の心を比べましょう。

《学習の方法を考える》

学習課題を決めた後，「どんなことに注意して一人学習をしたりみんなで話し合ったらよいか」と子供たちに問いかけた。子供たちからさまざまな発言があったが，次のようにまとめられた。

○登場人物の行動（したこと），様子，会話文からそれぞれの気持ちを考える。

○登場人物の行動（したこと），様子，会話文を比べて考える。

一人学習では、それぞれ工夫して課題についての自分の考えをまとめることにした。一人学習はほとんど家庭学習にした。ノートを教師が読み評価していった。また、工夫したと思われるノートの記述は、コピーして教室掲示した。この掲示により、互いのまとめ方を交流することにもなった。

課題を解決（追究）する

《1場面》○どうしておとうさんは、めちゃくちゃに高い高いしたのでしょうか。

子供たちが着目した言葉や文	子供たちの思い
母 「なんてかわいそうな子でしょうね。一つだけちょうだいと言えば何でも・・・。」	・お父さんとお母さんの気持ちは同じ。ゆみ子のことをかわいそうだと思っている。
父 深いため息 「一つだけの喜び・・・喜びなんて一つだってもらえないかもしれない・・・どんな子に育つだろう。」	・一つだけの喜びは、食べ物では味わえない。ゆみ子に覚えておいてほしい。
そんなとき決まってめちゃくちゃ高いをする	・心配なとき ・将来を想像して ・早く大きく、わずかでも幸せに ・いい子になるよう神様にお願いして ・お父さんは高い高いぐらしかゆみ子を幸せにすることができない。 ・もう会えないかもしれないからあやして笑顔を見たい。 ・戦争へ行くかもしれないから少しでも楽しませてやりたい。
<p>—学習後の感想「めちゃくちゃ高い高いするお父さんに話してあげよう。」—</p> <p>○これからも、どんどんゆみちゃんにめちゃめちゃに高い高いをしてあげてください。そしたら、ゆみ子ちゃんも喜ぶと思います。</p> <p>○お父さんは、ゆみ子を高い高いする事しかできなくて悲しいでしょう。戦争だから外で遊ぶ事ができない。家の中でもドタバタしていたら飛行機にみつかるともしれない。本当にかわいそうな家族。でも、ゆみ子ちゃんはだいじょうぶ。</p> <p>○ゆみちゃんはわがままじゃなくて、小さい子だから何でもほしいって言っているのだよ。大きくなったらきっといい子になるよ。だから、心配しないでね。</p>	

話し合いの時には、「先生からの質問」を出して、話し合いが深まるようにした。1場面では、一次感想にあった「ゆみはわがままですか。」と質問した。この質問を考えることにより、子供たちは、今の自分たちの生活と戦争中を比べ、食べ物・服など物資不足や時代背景を理解した。「そんなとき決まって、めちゃくちゃ」という言葉に父の切ない思いが表現されていると感じたようだ。また、感想に「ゆみ子はいい子に育ちますよ(育ちましたよ)」という記述も多く見られ、父の願いをしっかりと読んでいると考える。

《2場面》○戦争に行くお父さんの気持ちを考えましょう。

子供たちが着目した言葉や文	子供たちの思い
母 ゆみ子の泣き顔を見せなくなかったのでしょうか。	・思い出に、笑顔を見せたい。
父 まるで戦争になんか行く人ではないかのように 「みんなおやりよ、母さ	・本当は、戦争に行きたくない。 ・ゆみ子がだいじ。

<p>ん。おにぎりをー」 一輪のコスモス 「一つだけのお花。大事にするんだようー」 にっこり笑うと何も言わずに汽車に ゆみ子ににぎっている、 一つの花を見つめながらー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もう会えないかもしれない。 ・悲しい ・最後にゆみ子を笑わせて（笑顔）よかった。 ・泣き顔を見たくなかった。いい気持ちで行きたい。 ・お父さんがいなくても幸せにという気持ち ・コスモスしかやれないから悲しい気持ち ・思い出に、喜ばせたい。 ・たくさんの喜びにしてほしかった。 ・お父さんの顔だと思って（かわりにコスモスを） ・ゆみ子元気に育つんだよう。
---	---

ー学習後の感想「何も言わずに汽車に乗って行ってしまったお父さんは、ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながらーどんなことを思っていたでしょう」ー

○ゆみ子やお母さんに会えなくなってしまうから、行きたくなかったんだと思います。あのコスモスは、お父さんの言えなかった「さよなら」がまじっていたと思います。

○わたしは、お父さんが最後にあげたほんのわずかな喜び（コスモス）をお父さんだと思って大事にしてほしいと思ったんだと思います。お父さんがいなくてもお母さんと幸せにいれまじうようにと願っていたと思います。

○おすれられていたコスモスでも生き生きと育っているからコスモスのように育ってくれ…。

○・・・ゆみ子が戦争に行く日に泣いてしまっ、コスモスをあげたら喜んだから、コスモスにお礼を言ったんだと思います。

○ゆみ子に会えないと思っただけで悲しいつらい気持ちがでるんじゃないかな。反対にゆみ子が笑ってくれてうれしいのかな。どうなんだろう。

教師からの質問は「ーにはお父さんのどんな心の言葉があるだろう」だった。これは、感想の記述と重なる。別れの悲しさと子供への思いを子供たちなりに感じていた。

《3場面》○小さいころのゆみ子と今のゆみ子を比べよう。

小さいころのゆみ子		今のゆみ子	
着目した言葉や文	子供たちの思い	着目した言葉や文	子供たちの思い
「ひとつだけひとつだけ」	父や母にあやしてもらおう、遊んでもらう	父の顔も覚えていない	やっぱりお父さんのこと思い頭にちらっとある
「どんな子に育つだろう」	心配されている	ゆみ子の高い声	しっかり者
いつもおなかをすかせて（戦争）	何でももらえらと思っている	スキップをしながら	りっぱに成長
高い高い	悲しい、つらい	コスモスのトンネル	自分でいろんなことができる
一輪のコスモスの花	あまり幸せでない	をくぐって	自分から進んで作る
キャツキャツと足をばたつかせて	一つだけの幸せ	ゆみ子が小さなお母さんになって	母と楽しく
おいもや豆やかぼちゃ	一つだけの喜び	お昼を作る日	食べ物がいっぱい
	不安	肉と魚とどっちがおいしいの	安心
	父や母からもらった幸せ、三人で暮らせた		たくさんの幸せ
			自分でつくる幸せ

ー学習後の感想「今のゆみ子に話してあげよう」ー

○今の生活は、平和で安心で喜びも大きいからいいね。コスモスもいっぱいあるから、お父さんの顔を思い出してね。

○ゆみ子は、お父さんのことをどう思っていますか。・・・ゆみ子はお母さんを手伝ってえらいですね。あなたのお父さんは、今、天国にいます。小さいころよくあやしてもらっていたんですよ。戦争のころで苦しかったと思うけれど、ゆみ子はとても幸せです。私も今幸せです。今度はゆみ子がお母さんを幸せにしていく番です。

教師からの質問は「小さいころのゆみ子は本当に幸せでなかったのか」だった。戦争中は幸せじゃないが、今は幸せという雰囲気の話し合いになっていたからである。「三人で暮らした、何でもちょうだいと言った、高い高いをしてもらった、父や母が幸せを考えてくれていた、小さいころは周りの人の心を考えることはむずかしい・・・」などの発言があった。話し合う中で「小さいころのゆみ子は、両親が精一杯与えてくれた幸せ」で、「今のゆみ子は、自分でつくる幸せ」と読んでいった。戦争の時代に本当の幸せがあるのかという思いを、子供たちは、ずっと持ち続けているようだ。

ふりかえる

○学習課題について

3つの学習課題を子供たちは、よい課題であったとふりかえた。場面の違いが分かりやすく学習課題を考えやすかったのではないかと思われる。

1場面・・・とてもいい課題だと思う。なぜなら「深いため息」に答えがあるから。

2場面・・・ゆみ子とはなれるお父さんの気持ちを分かるという事は、課題にする重要なポイントだと思うからよい課題だと思う。

3場面・・・3場面の課題は、1・2場面をかざる課題だからこの課題でよかった。

○課題調べについて

1場面・・・課題調べの中で一番むずかしかった。文章の中でピカッと光る文がなかった。(課題を調べるために使う文がない。)

2場面・・・お父さんの出てくる所を何回も読んで気持ちを考えた。

3場面・・・最初と最後を比べて読んでいたらとてもちがうことがよく分かった。

全体的に・・・教科書を読んでいけば少しずつできたから不思議だなあと思った。

・・・色で分けて、重要な所は目立たせて考えた。教科書の言葉を頼りにしたらよく分かった。

・・・授業でやった意見を聞いて、その日にやったことをヒントにやるとかんたんだった。

○課題に解決の話し合いについて

・次の日みんなで話し合っていると、前の日一人でやった課題調べはかんたんによく分かった。

・毎日黒板がたくさんになっていくから話し合いがよくなったのだと思いました。

・みんなで考えると、「あ、そういう考えもあるんだなあ」と思いました。

3 おわりに

子供たちは、「～だから、この学習課題がよいと思います」と理由を述べて話すことができるようになった。それは、解決の方法につながる。不十分ではあるが、学習課題づくりに意欲をもつようになった。一人学習のノートにさまざまな工夫が見られ、キーワードを子供たち自身で見つけ、自分なりに考える力もついてきた。また、話し合うことが、自分の考えを確かめたり、深めたりするために大切な場であることにも気づいている。一人学習での考えを相互交流で広げたり深めたりする場、単元の学習を振り返る場での教師の支援が、子供の学ぶ力を育むことになると思う。